

日本学術会議の在り方に関する政策討議（第16回）
（総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会）

議事概要

- 日 時 令和7年6月26日（木）9：45～10：07
- 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室
- 出席者 宮園議員、梶原議員（Web）、佐藤議員、鈴木議員、菅議員、
波多野議員（Web）、光石議員
（事務局）
濱野事務局長、柿田統括官、徳増審議官、川上審議官、藤吉審議官、
彦谷審議官、塩崎事務局長補、岩渕参事官
（内閣府大臣官房総合政策推進室）
笹川室長、泉参事官
- 議題 日本学術会議の在り方に関する政策討議（第16回）
 - ・「日本学術会議法」について
 - ・「日本学術会議法」についての意見交換等

○ 議事概要

午前9時45分 開会

○宮園議員 それでは、第16回日本学術会議の在り方に関する政策討議を始めます。

本日は、内閣府から大臣官房総合政策推進室に参加していただいております。では、議事に入ります。

なお、会議の公開、非公開や記録につきましては、第1回の政策討議で決めさせていただきましたとおりいたします。すなわち、資料の説明はプレスオープンといたしますが、率直な意見交換を行うため、それ以降のCSTI有識者議員同士のディスカッションの部分は非公開とさせていただきます、プレスには御退席いただきます。ただし、発言者名を伏せた議事概要を公表することといたします。

議事は、日本学術会議法について、及び日本学術会議法についての意見交換等となります。

それでは、総合政策推進室の笹川室長から説明をお願いいたします。

○笹川室長 おはようございます。本日はありがとうございます。御紹介いただきました日本学術会議法は6月11日に無事成立させていただくことができました。本日は前回報告して以降の経緯と、それから今後の進め方について御報告させていただきたいと思っています。

まず、この法案、学術会議の機能強化を図るものであること、そして社会課題への対応が求められる中で、国民社会と対話をしながら必要な機能を果たしていただくというある意味現代的な役割であり、これらの位置づけをしっかりと果たしていただくためには、設立以来76年前の姿のままというより、法人というような動きやすい形になる必要があるのではないかとこの法律の趣旨を国会で説明させていただきました。

それから、一部懸念を持たれている方もいらっしゃいましたので、この法律は決してアカデミーの自由な活動を阻害するようなものではないこと、不当な介入を許容するものではないことも申し上げたところでございます。

上山参与にも参考人としてお出でいただいて、法人化の趣旨等々について分かりやすく御説明をしていただいたところです。

こうした経緯も踏まえて御理解いただき、参議院では修正案も提出されましたが、原案どおり成立させていただけたということでございます。

それから、付帯決議も衆参それぞれ頂いています。学術会議の自主性、自律性によく配慮するようにということや、あるいは逆にしっかり社会向けの課題に取り組んで欲しいことなども出ておりますので、これはこれでももちろん政府としてもしっかり受け止めて対応していきたいと思っております。

また、大きく2点ですが、国会の前後、特に終わった直後ほどの話を少しさせていただきます。まず、担当の坂井大臣からは、国会及び国会以外の方でもこのような発言をいただきました。

学術会議が今までどうだったかということよりは、今後よいものを作っていくことが大事であり、その点に重点を置いていきたい。法人化してよかったと多くの人に思ってもらえるような学術会議になるように精いっぱい努力していきたいということを繰り返し述べておりました。

それから、光石会長からも、成立の翌日に会長の談話を出されています。法案が成立した今、学術会議も独立性、自主性、自律性を確保しながら、ナショナルアカデミーとしての役割を發揮していくためになすべきことはしないといけないというようなことでした。

新しい法律の下で学術会議の更なる発展に向けて、学術会議においても準備、検討を開始するというようなことを表明されたものと承知しています。

また、光石会長には6月12日、別件で官邸にお出でいただいていた、そのとき石破総理とお会いになっています。その中でも総理から、政府と学術会議で今後密なコミュニケーションを取りながら新法人の円滑な設立に向けて準備を進めてほしいというような話もありました。

思いはそれぞれ100%は一致していないのかもしれませんが、目指すべき方向性を一つにしながら、お互いの立場で頑張っていきたいと思っているところでございます。

最後、今後の進め方についてです。二つあります。一つは、設立委員が本日総理から指名されました。その中では、学術会議の四役と、それから岸座長などの懇談会の方3名、それから事務方が入っており、その設立委員が設立の準備についてコミュニケーションを取りながら進めていくということ。それから、新会員の予定者などを指名する権限を総理から設立委員の1名に委任するということになっておりますが、それは設立委員である光石会長にお願いすることも今日決定されました。

それからもう一点、新会員の選考の方の話です。これは法律上、新会員を選考するための選考委員会を作ることになっていて、その選考委員会の委員は光石会長が有識者2名と協議相談しながら指名する仕組みになっています。この有識者については、先週6月18日にCSTIの有識者議員である宮園議員と、それから日本学士院の院長をされている佐々木先生、お二人が指定されています。これは組織の代表者というよりは、そのようなポストをされている有識者ということでございます。17年改革と似たような仕組みですが、そのような形になりましたので、今後3人の先生方、大所高所から、広い目でアカデミアの将来を考えていただくような課題を選んでいただけることと期待しているところです。

最後ですが、スケジュールについて。来年の10月1日の発足に向けて、今申し上げた新会員候補者の選考をはじめとする諸準備を進めていくことになります。いろいろ考えると、発足のやはり1か月、2か月ぐらい前には新会員の方々が内定している必要があるかと思います。政府からいつまでということでもないのですが、選考委員会はなるべく早く立ち上げて考えていただかないと、スケジュールはタイトだということになります。

したがって、光石会長、宮園議員、佐々木先生、是非よろしくお願ひしたいということです。

最後に、世界最高のアカデミーになってほしいということを政府からずっと申し上げてきましたし、懇談会でもそのようなスローガンで検討してきました。この思ひは学術会議の先生方、懇談会の委員の皆さま、我々、また、CSTIの先生方も共有しているところだと思います。

我々としても、学術会議とよくコミュニケーションを取りながら必要なサポートをしていきたいと思いますし、C S T Iの先生方も是非法律の趣旨を踏まえて新法人が発足して発展していく様子を是非見守っていただきたいというように思っているところです。

以上です。

○宮園議員 どうもありがとうございました。

それでは、この後有識者議員間の意見交換に移らせていただきますが、率直な意見交換を行うため、先ほど申しましたとおり、従来の扱いに従いまして、意見交換の部分は非公開とさせていただきます。

意見交換に移る前に、この時点でただいまの説明の資料について質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、有識者議員間の意見交換に移ります。議事概要につきまして、後日発言者名を伏せたものを公表させていただきますので、大変恐縮ですが、プレスの皆様は御退室をお願いいたします。

(プレス 退室)

○ ありがとうございます。

私はあまり日本学術会議そのものを認識できておらず、これからどういうところを目指してやっていくのかがいまいちぴんと来ないです。日本最高のアカデミーという目標はいいのですが、何百人という会員をノミネートしてマネージしていくことについて、具体的な運営や具体的なアウトプットをどのように求めているのかなというあたりをもう少し分かりやすく説明していただきたい。

○ ここは光石会長からもあるかもしれませんが、まず政府から一言申し上げます。

学術会議に期待することとしては、我々としてはやはり社会課題への対応、特にいろいろ科学的な知見がないと政策決定できないことが増えてきておりますので、それを期待しております。そこがある意味タイムリーでないとか、なかなか国民社会のニーズをくみ切っていないのではないかなというような指摘が懇談会でも出ておりました。

一方で、やはり学術の発展、研究基盤の整備、研究の強化、そういった点もある意味一丁目一番地であるのはアカデミーとして間違いないと思っています。時々誤解されるのですが、そういったことは置いておいて、政府の都合のいい何か審議だけしろと、そういうことを言っているわけではもちろんございません。飽くまでも2本柱ですが、もう片方の社会課題の方が最近の海外の潮流、国民社会のニーズを考えるとなっているということ、そのためには国民

と向き合って動きやすいように、海外アカデミー、あるいは民間の団体と共同で活動しやすくなるような形はやはり法人なのではないか、そういったことを申し上げてきました。

もちろん学術会議の特に光石会長の期に入ってから、アクションプランを作ってからかなり社会課題への取組をしていただいていますので、結果として方向性はそんなに違ってはいないと思っていますし、懇談会の議論の過程でも更に、大きな方向性は機を得てきていると思っていますので、そこは一緒にやっていきたいと思っています。

もう一点だけ、確かに法人という形になると、今まで学術会議の先生方は、もし言葉が適切でなければ直していただきたいのですが、やはり自分たちは研究者だ、学者だという頭が強くあり、マネジメント的なことをあまり考えていらっしゃらない雰囲気もあります。ただ、その点も今後責任を持って、ある意味経営者的な意味合いも出てくるので、目配りしながら頑張りたいと思っています。

○ 私からは、まず立場として、日学の会員である立場と、それからその後にC S T Iの議員であるという立場と、この両方の視点からコメントさせていただきます。

まず、日学の立場からしますと、今もうほとんどの会員の方々はボランティア状態です。日学の会員になると兼業届を大学に出すので、それを出すことによってまず出張費用を大学には請求できなくなります。つまり、東京などであればいいのですが、ほかの地域の大学の先生が来る場合は、それこそ何か別の用事と合わせるなど、工夫をしないとほとんど費用が出ません。私は会員になって以来、一度も手当も交通費ももらっていません。それは東京にいるので交通費も必要でないですし、手当も特に必要でないと思いますので、特に構わないのですが、ただ多くの方々がそういうわけにはいかないとも思います。

230人が250人に増えるということは、またもっと負担が掛かるというようなことになります。今の時点ですらもう負担が膨大になっている中で、法人化されたことによる日学への補助金のようなものをしっかりと付けていただかないと、おそらく日学の人たちがみんなリモートで出なきゃいけないような事態に陥るかなというように心配しています。

では、この総合科学技術・イノベーション会議の議員としてどういうことを考えるかという、やはり日学が法人化されることによって本当に世界の中で日本の日学はこういう活動をしているというのが見えるようにならなくてはならない。そのためには、先ほどおっしゃっていましたが、経営的な感覚も必要でしょう。大学の学長というのは、特にアメリカの学長のメインの役割は学外の人と交流し、寄附金を呼び込む役割を担っています。プロボストは研究の全体を見るというような形で分業されています。日学の会長も、日学の顔として、寄附金も含め

どうやって自立、自走できるような経営体制にするかというのを本当に真剣に考えていかなく
てはいけないんじゃないかなというように思います。

私事ですが、つい最近私オーストラリアのナショナルアカデミーのメンバーに任命されました。これは日本人で初めてなのですが、オーストラリアはアメリカなどと違って有名なところ
ではないのですが、やはりそれでもすごく手厚い、いろいろな任命をするに当たってインタビ
ュアーを送って来たり、それからセレモニーには来てください、全部旅費出しますからという
ようなことを言われていますし、しっかり大学の中でも宣伝してくださいと要望もありました。
それぐらい名誉があることですのでというのをしっかり伝えてくださいというように言われ
ています。そのため、やはりオーストラリアのアカデミーの人たちも、自分たちはそんなに知
られてないから、もっとしっかりと世界中の人たちに知ってもらうための努力を最大限にやっ
ているというように感じました。今後、日学も、世界の中でどのような立ち位置なのかとい
うことをしっかりとアピールしていつていただきたいなというように思います。

私からは以上です。

○ 日学を正しく理解いただくために一言だけ発言したいと思います。

ミッションの話がありましたが、社会課題を解決するということと共に、学術の将来、これは
学術あるいは科学について、人文社会科学、生命科学、理学・工学を含めてですが、それらの
将来がどの方向に行くのかということを示すということ。国民、市民の科学リテラシーを向上
するという。国際的に各国のアカデミーと協調する、あるいは、リーダーシップを取ると
いうことなどが求められています。

これは昨今のいろいろな課題が、カーボンニュートラルやパンデミックもそうですが、1国
だけではなかなか解決できない、地球規模で各国と協調していくということが非常に重要であ
ること、協調あるいはリーダーシップを取っていくということが必要になるということです。

このような諸々のことをやるということが日本学術会議には求められていると思いますし、
そのような点で貢献をしていきたいというように思っています。

○ C S T I の立場からしますと、この間の議論の中で、学術会議とC S T I の関係というこ
とがやや激しいやり取りの中で、車の両輪という言葉も出てきたというように理解しています。
私は、やはり基本的にはC S T I と学術会議というのは互いに影響し合い、また情報交換しな
がらやっていくのが正しい姿だと思います。

○ 議論が続いておりますが、時間になりましたので、第16回日本学術会議の在り方に関す
る政策討議はここまでとさせていただきたいと思います。

繰り返しになりますが、議事概要に関しましては非公開部分に関するC S T I 有識者議員の皆様のお発言部分について、それぞれ御確認を頂いた上で、発言者を伏した形で約1か月後に公表させていただきます。どうもありがとうございました。

午前10時07分 閉会